



いわて雫石への移住を応援

はばたく。



2019年 夏真っ盛り

いわて雫石への移住を応援

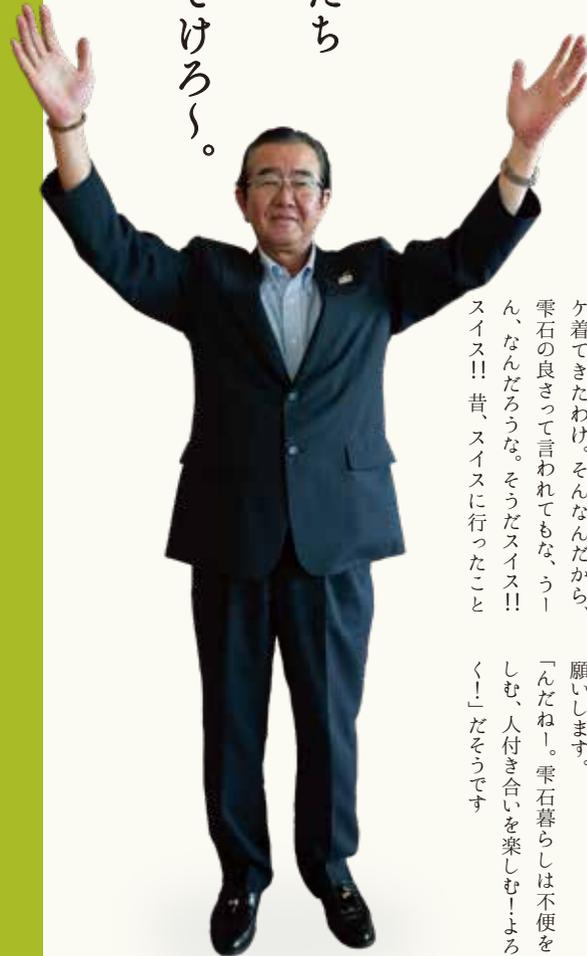
はばたく。



2019年8月発行 ● 発行人 雫石町 〒020-0595 岩手県岩手郡雫石町千刈田5-1 TEL.019-692-6499



さあ、わたしたち
雫石人の胸に、
飛び込んできてけろく。



では、猿子恵久町長、
雫石移住を考えるみなさまに
ひとことお願いします。



私、副町長の若林
と申します。
町長共々
どうぞお見知り置きを。

雫石町の猿子恵久町長は、雫石生まれ、雫石育ちの混じりつけなし。雫石人らしく、気さくでさくくばらんとした性格の持ち主です。というわけで、猿子町長から雫石の良いところを聞いてみました！
「いやいや、オラはね、今はこんな背広なんて着ているけど、ずっと雫石で花を育ててきた農家だからね、人生、ずっとヤツケさ、いっつもヤツケ着てきたわけ。そんなんだから、雫石の良さって言われてもな、うーん、なんだろうな。そうだスイス!! スイス!! 昔、スイスに行ったこと

があったんだけど、似てたんだよなあ、スイスに。だから、いいと思うよ雫石、人もいいじゃない。おもしろい人いっぱいいるもの!」とのこと。「ヤツケ」と「スイス」以外、記憶に残る情報はありませんが、とにかく、猿子町長の素朴な人柄は伝わってくるような気がします。
そんな猿子町長から最後に雫石に移住を検討する方にひとことお願いします。
「んだね!。雫石暮らしは不便を楽しむ、人付き合いを楽しむ!よろしく!」だそうです



明日、
移住する
あなたへ

photo by Atsushi Okuyama



「自由な人生」という響きは
いつだって美しいし、
その通りだと信じてきた。
子供の頃から。
でも、少し分別がつくと、
そうでもないことに誰もが気づく。
親を選ぶことはできないし、
性別や生まれる時代にも
選択肢はない。



自らが選択した結果であるはずの
仕事だって思い通りではない。
なるほど、自由な人生を
絡め取る要因はいくらでも、
僕らの周りには存在する。
ただ、それはそういうもの。
それが人生とする考えもある。
与えられたなかで、より良き道を探す。
そここそが人生と。



究極的にはそういうものだと思う。
でも、どうだろう？
究極の道を探すその前に
人生にもう少し自由を
与えてやってみようだろうか。
生まれ変わるほどの大きな自由は
もちろん与えられない。
でも、たとえば、明日、
見知らぬ土地に移住するという
自由はどうだろう。



『Country Songs』2006より

それを、少しずつ時間をかけて
作っていく。
そんな自由はどうだろうか。
自由ってものはたぶん、道具だ。
人が自分として生きるための道具。
だとしたら、移住は、あなたの
とても優れた道具になるだろう。
明日、移住するあなたへ。
朝目覚めたら、あなたは自由の
真ん中において、新しいあなたの
人生を歩き出す。



あなたが自分の意思で
生きる土地を選ぶ。
あなたがあなたのまま
そこで生きる人や風景と
関わっていく。
あなたが見知らぬ土地で
あなたと認められていく。
そして、あなたは、
あなたの人生を生きていく。

福本 幸子さん 福本 幸二さん



福本 幸子 福本 幸二

「雫石創作農園」を開くまで

長年勤めた職場の定年を機に、
東京から雫石へ

雫石町の南部、岩手山を北に望む高台に広がる南畑コテージむら（コテージむらについてはP30を参照）が福本敏さん、幸子さん夫婦の住まいであり、主宰する雫石創作農園の活動拠点だ。

雫石創作農園の活動の柱となるのが有機農業。約5000平米の土地を自ら耕し、南部小麦や野菜、豆類、ハーブなど、多品種を栽培している。そして、2本目の柱が、農産物を

使った加工品作り。ドレッシングや煮豆など、こちらにも多品種だが、とくに南部小麦を原料に天然酵母を使

って焼き上げた「農園のパン」は、10年以上に渡って愛されてきたベストセラー商品だ。香ばしく、噛めば噛むほど味わい深い農園のパンを求め消費者は全国に広がっている。

こんな福本さん夫妻も実は移住者。移住歴20年を越す、移住者としても、素敵な田舎暮らしの実践者としても雫石ではパイオニア的存在だ。とはいえ、当の福本さんによると、

「今でこそ様々な活動をしていきますが、移住したばかりの頃は現在のようになっ

ていないことになっているとは想像もしませんでした」とのこと。東京から雫石移住を決めた点についても、「確か、このコテージむらの広告が新聞に出ていて、一発で現地を訪ねて、ここだ！って。ほかの土地と比較することもなかったですね」と笑う福本さん。そして「それが良かったんです」とも加える。

「移住するための情報集めも大切に



はじまりはここから 東京から雫石へ

写真上、1997年、ヒマワリ畑の中での福本さん夫婦。麦わら帽子がとってもお似合い。有機農業に転換した頃。

写真左、1995年、雫石に5000平米の敷地を購入した福本さん。住居を建てる計画も進め、移住に向けて夢を膨らませる二人。「でも、この土に苦労するとは、思ってもみませんでした」とのこと。



雫石創作農園の永遠のベストセラー。

すが、最後に移り住んでみなければ、わからないんです。情報量ではなく、直感で移住先を決めたことで、実際の行動に移せたのではないかと感じています。

**意気揚々と臨んだ農業。
しかし、簡単ではなかった**

自らの直感を信じてコテージむらに飛び込んだ福本さん夫婦。さっそく所有した土地の約4分の1となる500坪の作付けに取り掛かった。

専門的な農業は初めてだったが、自家菜園を何年も維持してきただけに、そこそこの自信もあった。しかし、最初の3年と思うような成果をあげられなかったという。

「理由は土にありました。重粘土の山

土で肥料分が少なく、排水が悪い。だから肥料を入れ、暗渠も作ったりしました。でも、やっぱり土が良くないと。そこで、いろいろと勉強して辿り着いたのが「土」そのものを育てていく有機農業でした」と福本さん。

実はこの有機農業との出会いが福本さんを大きく変えることになった。

「本格的な有機農業については知識がありませんから、多くの先輩たちの知恵をお借りして、試行錯誤を続けました。すると、気づくことがあったんです。土」と一言で言ってしまうけど、土の中には数え切れないほどの微生物がいて、それらの生き物たちが変化していくことで全体が劇的に変わっていくんです。でもそれを促すには化学肥料のような対症療法ではなく、多



美しい景色の中で農作業にはげむ

1999年初夏、りんごの摘花を行う福本さん夫婦。果樹栽培はその後、ブルーベリーを栽培することに発展していく。この頃はハウスでトマトも栽培していた。



**やせた土地で奮闘！
有機農業との出会い**

土地改良で苦労するも、いつも目の前には雫石の美しい自然が広がっていた。冬のもとも格別。



農園が少しずつ軌道に乗れ、販売なども行うように。対面販売で少しずつファンを増やしていった。

次元の要素が同時変化していく姿全体で掴んで土に関わっていく必要があります。そうなる有機農業というのは、アートや哲学の世界だなんて感じるようになったんです」

こうして有機農業に目覚めた福本さん夫婦は、仲間を作り、理解者を



といて土づくり
ほつづく...

現在も畑の土を育むことに余念がない福本さん。土壌検査や水はけを改善したりと、創作農園の発展は続く！



土地も肥え、 いよいよ創作農園へ

ヤギのメリーさん、柴犬のケンちゃん、ニワトリ多数。有機農業も軌道に乗り、農園もいよいよ賑やかになってきた頃。「農業のほんとうの面白さ、難しさがわかってきた頃ですね」と福本さん。

最近では地元の子供たちへの食育のため、小学校へ赴くことも。「子供たちと一緒に豆の脱穀。とっても楽しい」



見つけながら、現在の創作農園を育んでいくことになった。

「有機農業は時間をかけて続けていくことが大切です。そして、理解者も必要です。私たちの場合、消費者のみならず、ほんのちろんのこと、行政のサポートなど、たくさんの方の出会いに恵まれました。人と人のつながりがあったから、パン作りをはじめ、いろんなことにチャレンジすることができたと感じています」。

**雫石に暮らして21年。
今、移住について思うこと。**

福本さんは、最近、これからを生きていくためには新しい哲学が必要になってきたと強く感じるという。

「それは今までの経済至上主義ではなく、自然と共存し、農食芸工に関わりながら、本当の豊かさを目指していくような生き方を模索する哲学とアートでしょうね」と福本さん。そして、それを模索する現場として、田舎暮らしや地方への移住という生き方があるのではと語る。

「移住とは田舎に引込むというようなことでは決してありません。これまで暮らしていた社会とは別の角度から新しいつながりを作ること。自分が住みたい場所に暮らし、そこを活動拠点として社会との関係性をリビルドしていく。そんな積極的な生き方が移住というものではないかと感じます。そして、この美しい自然に抱かれた雫石は、きっとそういう生き方が可能になる土地だと思っています」そう語って、「ちょっと真面目な話過ぎたかな。でも、移住ってね、本当に素晴らしいものなんです」と柔らかな笑顔に戻った福本さん。その表情のほがらかさが、移住後の人生の豊かさを物語っていた。

雲石移住18年のベテラン？移住者（フリーカメラマン）がつづる 移り住んだ先の日常

※ 寄合酒に呼ばれて

※寄合酒=雲石のとーちゃんたちの飲み会。集落内の親睦を深める大事な会合

雲石のとーちゃんたちの飲み会には「返杯システム」というものがある。これは誰かに酒を勧めるときにはかならず空のぐい呑を持って行って、相手に渡してなみなみに酒を注ぎ（その際、酒杯を押さえて込んで注ぐのがポイント）、注がれた方は、それを飲み終えたら相手に返すものなのだが、全部飲んでからしか返せないののでゆっくり飲んでると、あっという間にいろんな人から酒杯が届けられて、自分の前は酒杯だらけとなる。とくに移住者は物珍しいうからということもあって、もう次から次へと「まま、いっぺえ、やるべ」となる。当然撃沈である。



雲石のばーちゃんは働きもので草取りが大好き。自分の庭を取りきつちゃうと、暇を持って余したのか他人の庭にまできてむしり取る性質がある。とくに移住者の庭はほったらかしが多く、もう見てられなくなっちゃうのか、留守の間を見計らってやってきて草取りしてくれるのだ。こちらとしては大歓迎なのだが、勝手にやっていることなので、ばーちゃんとしてはどうにもバツが悪いのか、見つかりそうになると、すたこらと逃げるのである。

※草取り=春から秋にかけて、地元のお母さんたちが精を出して行う仕事



逃げていくおばーちゃん

いつだったか、こんな感じで、おばあちゃんがこっそりとうちの庭を草取りしていたので、声をかけると、突然、身を翻すや水路を飛び越えて逃げていった。背中のおおばあちゃんがかまを持っていたまま、すばっと水路を飛んで畑を走っていく姿には、「おおー」と、ただただ感動したのであった。恐るべし、雲石のおばーちゃんである。

古い公民館は 燃やしてしまえ！

※公民館=会合、寄合、さまざまな行事の後の飲み会などが行われる、とっても大切な場所

地区の公民館が老朽化したので、新たに建設しようという話が持ち上がった。でも、限りある予算。そこで、下った命令が、「節約のために解体はオラたちでやるべ。んだからさ、今度の日曜日、みんなボールとか斧とか、重機とか持ってこい」というものだった。そしてはじまった手作業による解体。ドカドカんとみんなで建物を壊す。それだけで十分ワイルドなのだが、壊した公民館の廃材を捨てるとまたお金がかかるし、金もないとかいう話が浮上りしてきて、で、導き出されたのが「節約のために、もう燃やしてしまえっ！」っていう鋭すぎる妙案。ゴウゴウと赤い炎で焼き尽くされていく公民館。テレビのブラウン管がドツカンと爆発音を上げたりして、はつきり言うて「火事だ!!」っていう光景だった。もう時効ですけどって話。



雲石に移住したからには、やっぱり山菜採りとか一度はしてみたいもの。その願いを申し入れ、雲石で絶賛活躍中のマタギの弟子入りをすることに成功した。

ところが、マタギのじいさん、結構スバルタな人物。雨でもなんでも激しく山歩きに連れていくのはしょうがないとしても、人生の価値観の最優先順位が、マイタケやタケノコなのにはちょっと困った。その時期がやってくると、仕事があるといっても「槍が降っても採りにいかねばなんねーんだ。マイタケ、おがりすぎたら（大きくなりすぎたら）おめえどーしてくれるべ」と鷹の目でジロツと睨むのであった。そんな人だから、つい仕事を優先した僕は破門されてしまった。以来、まったく口も聞いてもらえず。たかが山菜されど山菜。雲石は、されど山菜の人が圧倒的に多い土地柄である。

※山菜採り=春になると行われる大切なお仕事。古くからの町民は自分のエリアを持っている



マタギの弟子を 破門される!?

※簡易水洗=少量の水で汚物を流す画期的なシステム。汚物は従来通り汲み取りしてもらう。

※集落への郷土愛=雫石の集落は郷土愛に支えられ、草刈りしたり、飲んだり、野球したりといろんな活動が目白押し。

大人の運動会に参加

5月の雫石は運動会シーズン。町内のいくつかの小学校では、午前中に子供の運動会があり、午後からは大人の地区対抗運動会が催される。で、どっちが盛り上がるかっていうと、圧倒的に大人の運動会。突如、集落への郷土愛に燃えるのか、もうやる気まんまんで飛んだり跳ねたりする雫石の老若男女の姿を楽しめる。でも、さすがに背中が曲がったおじいちゃんの全力疾走には、胸踊るよりハラハラドキドキの切迫した感情が勝るのが常である。

そして、何より盛り上がるのが小学校低学年から70代までタスキをつなぐ地区対抗リレー。ただ、少子高齢化が激しい雫石だけに、人足から突然、20代のところに30代が登場したりと波乱のシーンも多く、勝敗の行方も二転三転して、妙に盛り上がる。運動会に毎年参加するようになったら立派な雫石人である。



森に囲まれた雫石。愛犬との散歩は自由が満喫できるひとときだ。とくにスノーシューを履いて、森の中を自在に歩き回る冬の散歩は都会暮らしでは味わえない楽しさだ。

そんな散歩では、狐や熊などの野生動物と出会うことも多いから、犬も野性味を取り戻すのだろう。あるとき、雪の山で愛犬が森に飛び込んでいったかと思うと、バタバタと騒ぐ雄の山鳥をくわえてきたという出来事があった。嬉々とした表情の愛犬に噛み付かれた山鳥。かわいそうだなと思ったが、次の瞬間には、さらにガブリといかれちゃったのか絶命してしまった。というわけで食べるしかないなど、家に持ち帰って、羽を抜いて鍋にしたのである。それを雫石の人に話すと、「自分で獲物を捕るなんて名犬中の名犬だ!!」って、愛犬の株が急上昇したのだった。

愛犬が

獲物を捕まえてきた



雫石の田園に引越してきて、突然フ

リーのカメラマンですって名乗ったところで、写真を撮るのだから以外の理解は得られず。ということで、実際にあったのが死んだおじいちゃんが撮っていた大量の菊の写真をお届けされたこと。おばあちゃんが抱えてきた箱の中は、菊コンテストらしきときの菊、菊、菊の写真の数々。これを見ている僕に、「おめえさんはきつと欲しいべ」とにっこり。「ここで、「なぜ?どーして?」って聞くのは愚問であろう。

あと、納屋かなんかで見つけためちゃくちゃ古いカメラが届けられたことも、もちろんぶつ壊れ中である。で、おじいさんが、「これどうにかならんかな?」って。修理してほしいでもない、もらって欲しいでもない、「どうにかならんか」ってバフッ(あいまいな)とした感じのやりとりが雫石流。

菊の写真や

壊れたカメラが届く



※菊コンテスト=菊愛好家の町民で沸く雫石。

町内にある野菊ホールで行われる町の芸術祭には、町の花である菊がたくさん並ぶ。

トイレを

簡易水洗にしたら

トイレがあふれた

…でも穴を掘って埋めた

最初に移住した先は借家だったが、そこがいわゆる「ぼっとん便所」だった。少しの間、それで我慢していたが、やっぱり、という話になって、シャワートイレ付き便座の簡易水洗にリフォームを敢行した。それで、すこぶる快適になったが、利便性は人をダメにするものである。

あるとき簡易水洗であることを忘れて、汲み取り依頼をすっかり忘れてしまったのである。すると、どうなるか。家の裏のタンクから、あふれてはいけないうものがあふれているって事件が発生した。

しかも汲み取りの人がなかなか来てくれないという負のループに陥るはめに。そういうわけで、いけないものは裏の畑に穴掘って埋めました。こういう大胆なことが、わりと簡単にできるのも雫石なのだ。



HAIJIから望む雫石盆地



聡さんの趣味はレコード収集。ロック、ジャズなどを聞かせてくれる。



「主人は広告代理店勤務だったので、まさに激務。このままだと早死にするって真剣に考えました」と美寿帆さんは当時を語る。当の聡さんも同じ気持ちで、「このままじゃ、自分も夫婦もダメになるなって。それで、もう東京はいいや、移住しようって。」
そう決心すると、いつかの夢としてとっておいたペンション経営がむくむくと大きくなり、岩手高原に立つペンションを購入することへとつながっていったそつだ。



「今はまだ僕たちらしい宿を作っている最中」と語る聡さんと美寿帆さん。集客もまだまだと語るが、その生活は本当に充実しているという。
「雫石の暮らしは知恵と身体を活かすことが基本。悠々自適というのんびりさはありませんが、暮らしをしている実感があります。東京では、暮らしができてなかったんですよね、きっと」と笑う二人。そんな二人は、訪れる宿泊客一人一人に、雫石の良さとして暮らす喜びを話すそつだ。



実はワンコ達2匹も移住組。東京と奥州市からやってきた。緑の中に立つペンション「HAIJI」。雫石をはじめとする地場の食材を活かしたメニューが自慢。

移住のセンパイが語る

①
雫石って
こんなところ!

上村 聡さん・美寿帆さんご夫婦 ● 2013年移住・ペンション経営

東京から雫石へ 「暮らし」をしている実感



上村さんのプロフィール

年齢：ご主人41歳、奥様38歳
移住歴：2年3ヶ月
家族構成：夫婦2人、子供1人、犬2匹
移住前の住居：東京・マンション
現在の住居：中古ペンション購入
移住前の仕事：会社員
移住後の仕事：ペンション経営

*プロフィール、写真は取材当時（2015年）のものです

岩手山の中腹に位置する岩手高原。眼下には、雫石の美しい田園が広がる。この自然の良さに惹かれ、約2年前に東京から移住し、ペンションを営むのが名古屋出身の上村聡さんと、妻で岩手県奥州市出身の美寿帆さんだ。この二人に1歳5ヶ月になる雫石っ子の愛娘の天乃ちゃんと、2匹のワンコ達を加えた賑やかな一家で雫石を訪れる宿泊客をもてなしている。

上村さん夫婦が移住を考えたのは結婚前。いつかは、と憧れていたという。そんな思いが実現に向けて動き出したのは、移住のわずか1年前。



自家焙煎された豆は、通信販売も可能。味わい、香りなど、好みに合わせてセレクトしてくれる。



店内は落ち着いた木の佇まい。ゆったりした気分でくつろげる空間だ。

移住の先輩が語る

2

雫石での
移住後の暮らし

箱崎光良さん・みきさん●2009年移住・カフェ経営

移住で大きく変わった人生を楽しんでいます



箱崎さんのプロフィール

年齢：57歳（お二人とも）
 移住歴：11年
 家族構成：夫婦2人、犬1匹
 移住前の住居：千葉県・一軒家
 現在の住居：山林の土地を購入、住宅兼店舗（カフェ）を新築し開業
 移住前の仕事：会社員
 移住後の仕事：自家焙煎コーヒー販売・カフェを開業

現した。そして、第二の人生として始めたのが前述のカフェ。在職中に趣味から始まり、自家焙煎珈琲の名店である東京のカフェバッハで修行するまでのめり込んで習得した技術が、雫石での「風光舎」開店につながった。「バタバタと開店の準備を進めて、移住から1年もしないうちにオープンしました。本当は豆専門店としてやっていければと思っていたのですが、

雫石の森の中に珈琲好きが集うカフェがある。丁寧に自家焙煎した豆をハンドドリップで淹れた珈琲と、窓の向こうに広がる岩手山のある風景が人気の「風光舎」だ。
 オーナーは、11年前に千葉県から雫石へと移住した箱崎光良さん、みきさんのご夫婦。夫婦共に外資系航空会社に勤務していたが、45歳を機に退職。雫石で理想だった「自然と共に暮らせる土地」と出会い、「いつかは」と考えていた田舎暮らしを

も、こういう風景のきれいな場所にパンプ椅子を出して試飲じゃないなど。結果、カフェになりました」と光良さん。この言葉に、「自家焙煎とカフェの両立は大変ですが、お客様同士がお友達になられたりするのを見たら、こういう場を作って本当に良かったって、最近よく思うんです」と加えるのはみきさんだ。

そんなご夫婦も雫石生活11年目。その感想はと尋ねると、「移住で失ったものもあると思います。でも、ここで得た大切なものはそれらと比べることができません。それはここではか手に入れられないものだからです。何より、一度きりの人生が移住をきっかけにしてこんな風に変えられるというのはとてもいいなと感じています」と笑って答えてくれた。風光舎の香り高い珈琲は、今では雫石の魅力のひとつへと成長している。

三宅博都さん ● 2016年移住・農業

雫石の風景を作っている。そんな気持ちで農業しています。

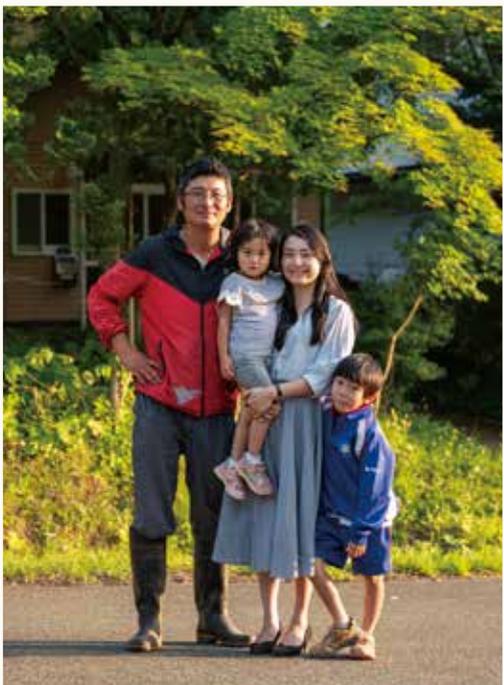
三宅さんのプロフィール

年齢：42歳
移住歴：3年
家族構成：夫婦2人、子供2人
移住前の住居：千葉県・一軒家
現在の住居：借家 畑を借りて家庭菜園も楽しんでいる
移住前の仕事：会社員
移住後の仕事：農業（地域おこし協力隊を経て、町内の大規模集落営農法人にて農業を行っている）

「朝、ここに来て、田んぼの様子を見る。それが本当に気持ちいい」と、岩手山を望む田の前で語るのは、3年前に移住してきた三宅博都さん。現在は町内大規模集落営農法人である（株）みのり片子沢の専務として、忙しい日々を送る。業務は水稻とミニトマト栽培が中心だが、三宅さんによると「冬は除雪もしますし、草刈りもある。農業と言っても仕事はさまざま。私としては雫石の田園風景を守っている気持ちですよ」と胸を張る。



管理している田んぼの水の調整を行う三宅さん。「農業は発見の連続。それが面白い」。三宅さんの家庭菜園ではスナップエンドウが大きく膨らむ。



家族4人で雫石生活を楽しむ。ちなみに奥さんは中国の南部地方出身。「寒い寒い」と言いながらも楽しんでいるのだそう。住まいは農地付きの一軒家。



でも、実は三宅さんが本格的に農業の世界に入ったのは雫石に移住してからのこと。前職は大手電機メーカーで技術営業職に就いていたのだという。

「前の仕事では、海外勤務もあり、刺激的でした。でも、どこかで違う人生も探していて。そんなときにた

またま参加したのが移住体験ツアーでした。雫石のことは何も知らなくて、どこそれ？って感じでした。でも、行ってみたら雪景色が本当に美しく、直感でここに住んでみたいと思ったんです。」

そしてトントン拍子に移住し、地域おこし協力隊をしながら農業への知識を深めた後は、現職へと進んだ。そんな三宅さんにとって農業は、「可能性しかありません。働き方も自由だし、何をしてもいい。飽きることはありません」とポジティブなもの。その源になっているのが家族との雫石での穏やかな暮らしだ。

「仕事、家庭菜園、そば打ちなど趣味も充実し、子育ての環境もいい。本当に雫石の暮らしは満足しています」と三宅さん。日に焼けたその表情は、雫石生活者の顔だ。



写真上、栗石元祖軽トラ市では、商工会青年部の主要メンバーとしてイベントなどでも大奮闘！ 写真下、娘さんたちも、民謡と三味線を栗石出身の民謡歌手「中川愛子」師匠から学んだり、栗石のYOSAKOIチームに参加するなど、活躍中！

「地域活動ってやったことがない人には面

「東京時代よりも収入は減りました。でも志が同じ仲間たちがたくさんできました」と、その表情は誇らしげだ。地域のために自分を活かす。これが浦田さんの移住生活の中心にある。



地域づくりでは頼まれたら断らないのが浦田さんのモットー。取材日も商工会青年部から依頼されたポスター制作を行っていた。

「栗石商店街よしやれ通り近くの自宅ではいろいろな仕事が増えちゃって。両手の指では足りないくらいですよ」と笑うのは、2009年に東京から奥さんの故郷である栗石に移住した浦田大輔さんだ。話している内容は、浦田さんが参加する地域づくり関係の活動についてだ。

倒かもしれない。でも、自分や家族が暮らす地域をより良くする活動だから、すごくやりがいはあるんですよ」とその動機はシンプルだ。こうした活動ができるのも移住の結果なのだという。「東京で暮らしていた頃はもう残業だらけ。自分のことで精一杯で、地域なんてないも同然。でも栗石にきたら仕事だけじゃなく自分の時間もある。だったらそれを地域のために使おうと思ったんです」。そして、そうした活動は浦田さん自身の人生を豊かにしてくれていると語る。

移住の先輩が語る

4
栗石での
移住後の暮らし

浦田大輔さん ● 2009年移住・会社員 IT系業務担当

みんなで地域を良くしていく。
その活動が楽しい



浦田さんのプロフィール

年齢：39歳
移住歴：10年
家族構成：夫婦2人、子供2人、猫3匹、熱帯魚少し
移住前の住居：東京都・賃貸物件
現在の住居：賃貸一戸建て。駐車スペース（5台くらい）、自宅前の畑込み
移住前の仕事：広告代理店でIT系の業務を担当
移住後の仕事：前職を生かし、盛岡の会社に就職。IT系業務を担当。

借りている家はなんと、6LDK!
大きな桜の木がある
昭和レトロな一軒家。
薪ストーブまであるんです!

現在のお仕事
町おこしセンター
スタッフ



山内 瑞貴さん

①25歳②1年4ヶ月③本人、猫4匹、メダカ5匹④盛岡・賃貸マンション(出身は山形県)⑤一軒家(庭・畑・薪ストーブ付き)⑥農学部の学生⑦町おこしセンタースタッフ(時々農作業や旅館業のバイトや、行政・住民活動の支援など)⑧あたたかい人と温泉。雫石という地名の美しさ。岩手山神社の美味しい水⑨美味しい野菜や山菜、ジビエなどをたくさんもらう。落ち込んだ時など商店街の灯りにいやされています⑩約10万円~(冬場は暖房費がかさむ)

現在のお仕事
チーズ工房
経営

就職を機に、雫石へ。
縁があってチーズ工房を始めました。
いい温泉が沢山あって
それも楽しみのひとつです。

佐野 正晃さん・道子さんご夫婦

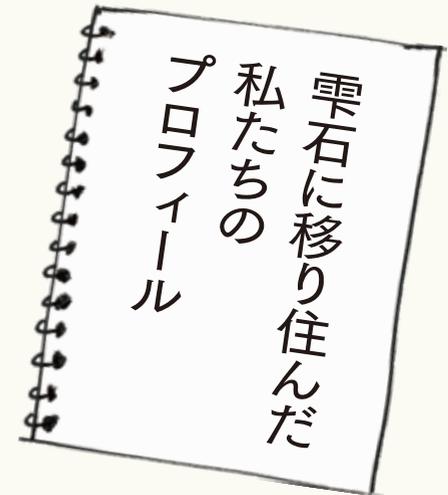
①51歳(2人とも)②ご主人28年、奥様22年③夫婦2人、犬1匹、猫5匹④東京⑤一軒家⑥大学卒業後、雫石町内に就職⑦6年前に独立。チーズ工房開業⑧雫石に知り合いの酪農家があったため、その縁で開業を決めた⑨冬が厳しいこと以外は、とても快適⑩約20万円



現在のお仕事
農業

①年齢②移住歴③家族構成④移住前の居住地⑤現在の住居⑥移住前の仕事⑦移住後の仕事⑧移住を決めたきっかけ⑨雫石への移住を決めた理由⑩現在の生活費

雫石に移住された方々に、以前の暮らしから変わったこと、どうして雫石に決めたのか? 雫石のいいところ、悪いところ、お金はどうしてる? などなど、大切なことだけけれど、ちょっと聞きにくいことをびじっと聞いてみました。どうぞご参考に!



雫石では、いろいろな種類の作物を作っていて、いつも地元の人と話して教えてもらっています。

藤枝 正道さん

①39歳②12年③夫婦2人、子供2人、犬1匹、ポニー2頭④盛岡・一軒家⑤農地付きの一軒家を購入。両親が敷地内に店舗(そば屋)を新築し開業している⑥会社員⑦農業(冬場はスキー場でバイト)⑧仕事先で農家の方と出会い、農業の魅力を感じた。その後農業大学で農業を学んだ⑨雫石は米、野菜、花、酪農など様々な農業が可能な土地。刺激もあるし、いろいろ相談できる人もたくさんいる。これからは、収穫量だけでなく質にこだわっていきたい⑩約20万円



子供たちにとって、とてもいい環境。
そして、なにより空気、水、食べ物が
美味しいんです。

現在のお仕事
料理研究家
・講師



伊藤 信子さん

①45歳②5年③夫婦2人、子供4人④東京⑤⑥東京の大学を卒業後、岩手県内（久慈、岩泉など）で就職。借家で暮らしていたが、4年前に雫石に一軒家を購入⑦雑穀料理の教室・セミナーの講師など⑧夫の勤務地（盛岡）に近いこと。豊かな自然と、生活の利便性（交通、買物など）がよい。地元の工務店との出会い⑨のびのびと子育てができる環境がある。温泉やスキー場が近いことも嬉しい。県内外からのお客さまにもアクセスがよい⑩約20万円

現在のお仕事
漆塗り職人



家はハーフビルドで建てました。
今でもまだ、あちこち手直し中。
自分ならではの暮らし方がいいよね。

井上 純夫さん

①65歳②24年③夫婦2人、子供2人、母親④横浜・マンション⑤土地400坪を購入、ハーフビルドで家を建築⑥会社員⑦移住前に職業訓練校で木工を学び、移住後は、就職した企業で漆の技術を学んだ。現在は、アルバイトをしながら漆塗り工房を経営。ミュージシャンの顔も持っている⑧知人を通じて雫石を知る。自分の住みたかった理想の町にとっても良く似ていた⑨豊かな自然と、生活の利便性。都市と田舎のバランスがよい。雪は好きだけど、運転や雪かきが大変⑩約20万円

現在のお仕事
自然布の
織作家



雫石の伝統的な民芸や
昔の知識や民具を
今に伝える仕事をしています。
とても貴重な経験です。

小田 晴世さん

①72歳②39年③夫婦2人、子供1人④高知県出身、移住前は軽井沢のアパート⑤一軒家⑥高等学校の教諭⑦自然布の織作家⑧雫石出身の男性と結婚を期に移住⑨自然が生活のいたるところで感じられ、マイペースで暮らせるよさがある。昔の知識や民具を作っている多くの人たちに会う事ができた⑩約20万円

日本の田舎の風景がそのまま
残っているこの土地だから、
ここで暮らすことを決めました。
今はインターネットもあるので、
なんの不便さも感じません。

現在のお仕事
建築業・南部鉄
南部蒔絵アクセサ
リーの開発・販売

鈴木 勝さん

①52歳②14年③本人、子供3人④大阪・一軒家⑤一軒家を購入。借地に店舗を開業⑥会社経営（建築設計）⑦会社経営（建築業、南部鉄・南部蒔絵アクセサリーの開発・販売）⑧仕事関係で雫石に移住。その後、雫石の自然や人柄にひかれ、本格的に定住⑨のびのびと自然体で過ごせる。地元の方から野菜などもいただける。地域の集まりには積極的に参加している。交通の便もよく、インターネットを使うことで仕事上も支障はない⑩約40万円（お子さんが海外留学中のため仕送り等含む）



岩手山を望む絶景の中で、農的暮らしを楽しもう！

コテージむらも移住者を大歓迎

現在販売されている分譲地は、農地約13~38アールに宅地5アールがセットになった土地。価格は600万円台から。
ちなみに本誌で紹介した福本さんが主宰する雫石創作農園の活動拠点。親切で頼もしい先輩の存在も大きなメリットだ。



雫石の南部、南畑に位置するコテージむらは、宅地兼農地として、岩手県農業公社が分譲している農業団地だ。総面積は約63haあり、現在は就農者の農地のほか体験農園などで14haが利用されている。

このコテージむらで新規に農業を始めるメリットは手厚いサポートが受けられる点。農

業の専門機関である岩手県農業公社が営業資金支援（最大で土地分譲価格の10%）をはじめ、農業技術の指導など、就農に必要なサポートを提供してくれる。

就農を夢みても実際にそこに飛び込むには相当な勇気が必要。でも、コテージむらであれば、夢は一気に近づく！



おもしろ農業体験塾

基礎コースと実践コースに分かれ、コテージむらの畑を使って、様々な作物の栽培、収穫、加工などの実習を行います。



キノコの山プロジェクト

地元の木を^{ほだ}桐木にして、ナメコなどの栽培に取り組んでいます。間伐・伐り出しから植菌、収穫までの作業を行います。

まだまだあります！
コテージむらの楽しみ！

お問合せ

[コテージ村について]

コテージむら管理センター
tel 019-695-2306
http://www.minamihata.com/

[分譲について]

公益社団法人 岩手県農業公社
tel 019-651-2181 (代)
http://www.i-agri.or.jp

七ツ森の大自然いっぱいのロケーション



円形の多目的ホール、会議や相談などに使用できる個室で区切られた多目的スペース、2部屋のお試し居住で構成された施設です。岩手山も一望できる緑に囲まれた環境です。

使い方はアイデア次第。
宿泊体験もできる
多目的コミュニケーション施設が完成。
雫石に新たに誕生した七ツ森地域交流センターは、移住を考える人にとっては外せないスポット。恵まれた自然環境での宿泊体験が可能のほか、常駐のスタッフに雫石移住についての相談を持ちかけることもできる。ここに行けば、移住の夢が実現する!?

2タイプの宿泊体験用のお試し住居



定員1~3名のお部屋と、2~6名のお部屋の2タイプのお試し住居をご用意しました。テレビや調理用具なども設備も充実しています。暖房にベレットストーブが設置されているので、冬の雫石でも安心して宿泊体験ができます。



各種イベントなどにも対応できる木の香りたっぷりの多目的ホール

イベントや展示会、ワークショップなどに利用できる多目的ホール。キッチン設備も完備された円形の素敵な空間です。ホールのセンターには薪ストーブ、床暖房も完備されています。使い方はアイデア次第。どなたでもお気軽にご利用ください。

※施設の使用、移住相談などにつきましては、町の相談窓口、または、七ツ森地域交流センター（P38 参照）までお問い合わせください。



Q 雫石で就農したいと思います。どうやって情報収集すればいいですか？

雫石で就農をしたいとお考えなら、まず、役場の農林課へいらっしゃってください。どういう農業がしたいかイメージをお持ちであれば、イメージに沿うような農業を実践されている先輩農家をご紹介します。きっと、ネットワーク作りに役立つと思います。また、漠然と農業をしたいということでも全く問題なしです。一緒に、あなたにとっての雫石の就農について、じっくり考えましょう！

Q 雫石でオススメの農業スタイルは？

稲作が中心の雫石ですが、新規就農でオススメしたいのは野菜ですね。露地栽培から始めて、ハウスを導入してという感じで徐々にノウハウを身につけながら、規模を拡大していくのが理想的です。1年目から専業として収入を得るのは難しいかもしれませんが、副業としては成立しますよ。



農業のことなら
農林課へ！
スペシャリストが
お答えします！



Q 雫石で農業をするメリットは？

雫石の自然は厳しいですが、盆地地形のため、日当たりの良い土地も多く、栽培品種は実にバラエティーに富んでいます。また、産直の数も多く、隣には県内最大都市の盛岡もあるので、売り先に困らないのが雫石の農業です。ぜひ、知恵と工夫を生かして、可能性を広げてみてください。



Q&A
就農も!!

雫石で働きたいのですが…

Q 雫石の人はどういう場所で働いているんですか？

観光と農業が雫石の基幹産業ですので、温泉旅館やホテルなどにお勤めの方が多いいらっしゃいます。そのほかでは、建設業関係や介護施設などのお仕事に就いている人も多いですね。また、雫石は盛岡に隣接しているので、自然豊かな雫石で悠々と暮らし、仕事は盛岡という方もたくさんいらっしゃいます。農業については稲作のほか、近年は野菜や花、酪農などで高収益を得る農家も少なくありません。



仕事のことなら
観光商工課へ！
そしてガッチリ
かせいでください！



Q 雫石で起業をしたいのですが

雫石での起業のメリットは盛岡などに比べると賃貸物件の安さが挙げられます。中心商店街にも優良な物件がございますのでご紹介することが可能です。起業の業種については、場所を選ばないIT関係のほか、自然や農産品の質の高さなど、雫石ならではの特徴を活かす業種も考えられると思います。



Q アルバイトや副業となる仕事もありますか？

観光業が盛んな雫石ですから、ハイシーズンには、アルバイトの募集が行われます。とくに雫石にはスキー場が3つあり、募集人員も少なくありません。また口コミでの募集となりますが、田植えや稲刈りなどの時期には、お手伝いを必要としている農家もあるようです。



4 “ビッグ”か“ジョイス”か？
それが問題だ！

日々の生活には欠かせない食料品の買い出し。その強い味方が、町の中心部に構える大型スーパーのビッグハウスとジョイスだ。互いの距離は自転車で行ける近さ。当然、大型駐車場を完備とあって、ともに町民からは絶大の支持を誇る。野菜はあっちが安い、肉はこっちだなど、愛用者の間では論争は激化中だが、どちらもなくてはならないお店です。



あなたはビッグ派？、ジョイス派？

国見温泉は「日本秘湯を守る会」にも登録されている名湯！

6.



まさに温泉♨だらけ！

雫石は、県内でも有数の温泉天国。町内には鶯宿温泉、国見温泉、網張温泉など、いくつもの温泉が点在する。日帰り風呂も充実しているので、家のお風呂を使わず、毎日、温泉利用なんて人も結構いたりする。休日は近場の温泉で。そんなのは、朝飯前に出来ちゃう雫石です。

5 荒野を貫く情報網！
光ファイバー

田舎でもバカにするなよ、雫石も光だぜ！ってことで、町内どこに住んでいても光ファイバーでネットはサクサク快適。携帯もほぼどこでも繋がるし、雫石で情報難民になることはないのだ。



1

雫石から東京へ
赤い稲妻でビューン!!

こちらもcheck!



雫石駅のこまち停車は、上下合わせて1日8本!

雫石暮らしの便利さを象徴するのが、秋田新幹線「こまち」の存在。雫石駅前の無料駐車場に停車時刻の5分前に着き、乗車、約2時間半後には東京駅に到着という便利さだ。さすがに通勤圏内とは言えませんが、日帰り出張ぐらいは出来ちゃうんです。

2

小学校の給食は手作り。
雫石っ子はとってもグルメ!?

岩手県内の学校関係者たちの間で噂になっているのが、雫石の小学校給食の美味しさ。その理由は給食センターを設けず、町内5校の小学校それぞれで手作りしている点にある。また、地産地消精神で雫石の食材を多用しているのも美味しさの秘訣なのだ。



今日のおかずは何かな？ 毎日美味しい給食を作ってくれる栄養士、調理師の皆さんに感謝して、みんな元気にいただきます！



3

健康を守る診療所も
ピッカピカで万全体制なのだ!

健康は雫石町民の基本。でもときには病気にも。そんなときの駆け込み寺が町立雫石診療所。ドクターはもちろん、看護師の皆さんもとっても親切！健康第一は、雫石生活の基本中の基本なのだ！



町の中心にある診療所。入院もできちゃうのだ。

7 “あねっこバス”という名の
タクシーでスイスイ!!

いわゆる路線バスの代わりに活躍している町民の足が「あねっこバス」。あらかじめ電話予約して乗車するオンデマンドタイプで、町内に張り巡らされた路線を1回200円で利用できる便利なサービスだ。自家用車がなくても、「あねっこバス」があれば、生きていけるのだ!



あねっこバスとして活躍しているタクシー車両。

たぶん、結構「イケてる」雫石の暮らし

雫石の移住・便利帳



暮らし

- ・浄化槽設置費助成：専用住宅に浄化槽を設置する場合最大7割を助成します。
- ・浄化槽の維持管理費助成：維持管理費の一部（一律2万円）を助成します。
- ・あねっこバスの運行：デマンドシステムによるバス運行（小学生以上：1路線一律200円で乗車可能）
- ・エコエネルギー関係：太陽光発電設備や太陽熱利用設備、まきストーブなど木質燃焼設備の導入に係る経費の一部を助成します。



就業・農業

- ・新規就農・総合支援事業：就農支援の補助金制度を活用できます。
- ・農地借用の斡旋：希望する農地の斡旋を行っています。
- ・就業支援：町内外の企業求人情報を提供します。
- ・空き店舗の改修補助：空き店舗を活用して新規出店する事業者へ改修費用の1/2（上限100万円）と、店舗賃貸料の1/2（上限月3万円、1年間のみ）を助成します。



教育

- ・奨学金：高等学校以上に進学される場合に町の奨学金制度を活用できます。町の奨学金は、一定の要件により償還免除制度があります。
- ・スクールバス：遠距離通学となる小中学校の児童生徒はスクールバスの利用が可能です。
- ・スクールガード：子どもの登下校の安全を確保するため地域での見守りを行っています。
- ・緊急連絡網システム：学校と保護者間の連絡をメールにより一斉送信し情報を共有します。
- ・放課後児童クラブ等：5小学校で開設して子育てサポートをしています。また児童館1館を開設して、遊びを通じてお子様の健全育成を図っています。
- ・学校給食：全校自校調理方式で、町内産の農産物を使用して食育の強化に努めています。小学校、中学校の給食費を町が半額負担します（県立雫石高校では、給食（おかずのみ）への助成制度があります）。

全力で
応援させて
いただきます！



住まい・住居

- ・定住促進住宅の入居者を募集しています。
- ・空き家バンク制度があります。
- ・農地(畑)付分譲地コテージむらの小区画を販売しています(岩手県農業公社)
- ・お試し居住住宅：定住促進住宅と、七ツ森地域交流センターを利用したお試し居住体験が可能です。
- ・空き家リフォーム助成：空き家バンク登録物件にかかる改修費用の1/3（上限100万円）を助成します。
- ・移住相談・移住体験ツアー：町の魅力を体験できるツアーを開催します。また、移住相談のための町への交通費の一部を助成します。

こちらが定住促進住宅



福祉施設・子育て

- ・出産祝金：第3子以上の出産者に5万円と地域商品券5万円を支給しています。
- ・不妊治療費助成：女性・男性を対象に、不妊治療に係る経費の一部（上限10万円）を助成しています。
- ・保育料：小学生以下に該当する子供の人数に応じて、二人目は最大半額免除（所得要件による）、三人目以降は無料。
※国の教育無償化制度により3歳児～5歳児は無料となります。
- ・特別保育：保護者の仕事などの事情で一時的に預ける一時保育や、通常保育時間以降の保育を行う延長保育、休日に保育を行う休日保育の利用が可能です。
- ・病後児等保育：幼児の病気明け（回復期）に、病後児等保育施設でお預かりします。
- ・家庭保育の支援：3ヶ月以上3歳児未満の幼児を家庭保育している世帯に、月5,000円の地域商品券を支給しています。
- ・医療費助成制度：18歳以下の保険適用医療費が無料となります。ロタウイルス、おたふくかぜの予防接種の半額を助成します（金額上限、年齢制限あり）。

これも大切！

まだまだ至らない点もございますが、サポート強化中です！

雫石で
一緒に暮らし
ましょう！



● 雫石の概要 (2019年5月1日現在)

位置 北東北地方の拠点都市である盛岡市の西方約16kmに位置。
面積 608.82 km² (およそ東西24km、南北40km)
人口 16,538人
地勢 秀峰岩手山をはじめ1,000m以上の山が連なり、山岳や高原が総面積の大部分を占めており、標高300m以上が総面積の約80%に達している。山麓部には広大な傾斜地が開かれ、天然林、牧野、田畑がのどかな田園風景をつくりだし、田、畑の耕地は、葛根田川、雫石川、南川の三河川流域に展開しています。

気候

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
最高気温(°C)	0.8	1.7	5.6	13.5	19.1	23.0	23.9	27.7	23.2	17.1	10.0	3.7	14.3
平均気温(°C)	-2.9	-2.3	1.1	7.7	13.3	17.8	21.3	22.6	17.9	11.2	5.0	0.1	9.4
最低気温(°C)	-7.3	-6.9	-3.4	1.9	7.5	13.2	17.4	18.5	13.4	5.9	0.4	-3.6	4.8
降水量(mm)	69.6	64.2	92.8	108.7	120.0	132.5	230.7	206.4	184.9	115.8	120.0	99.6	1542.1

出典: weather.time-j.net

アクセス 東京から 秋田新幹線こまち 約2時間30分
 東北自動車道 約7時間40分
 盛岡市(岩手県庁所在地)から 自動車約25分(JR田沢湖線約20分)

買い物 町の中心部に商店、スーパーマーケットあり
医療機関 町立診療所、個人病院(小児科・歯科・内科・眼科・泌尿器科)
教育機関 保育所・保育園8、私立幼稚園1、小学校5、中学校1、高校1
スポーツ施設 野球場1、温水プール1、体育館1、テニスコート2、スキー場4、ゴルフ場2、陸上競技場1
交通機関 路線バス(岩手県交通)、JR(秋田新幹線、田沢湖線)、デマンドバスによるコミュニティバス(あねっこバス)
福祉施設 地域包括支援センター、デイサービス、老人ホーム等
警察・消防 盛岡西警察雫石交番、盛岡西消防署雫石分署
ネット環境 町内全域でインターネット(光回線)使用可能
主要産業 農業(稲作、畑作、作農) 観光(小岩井農場、スキー場など)

ご相談は
お気軽に!

● 相談窓口

雫石町役場 政策推進課 企画グループ
 TEL 019-692-6499(直通)
 Mail kikaku@town.shizukuishi.iwate.jp
 URL https://www.town.shizukuishi.iwate.jp/teijyu/

七ツ森地域交流センター
 TEL 019-601-3566

ふるさと帰郷支援センター
いわて暮らしサポートセンター
 〒100-0006
 東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8階
 TEL 03-6273-4401(代)
 Mail iwate@furusatokaiki.net
 URL http://www.furusatokaiki.net
 *雫石町ブース出展中

【雫石町のPRポイント】

「軽トラ市」発祥の地
 軽トラ市のほか、雫石よしやれ祭り、いわて雪まつりなど各種イベントで賑わいます。
都市部とのアクセスが抜群
 秋田新幹線で乗り換えなしで東京まで約2時間30分。また、県都盛岡市まで車で約25分とアクセスに恵まれた、都市機能と自然環境のバランスの良いまちです。
今や全国的に広まった
「軽トラ市」発祥の地
 軽トラ市のほか、雫石よしやれ祭り、いわて雪まつりなど各種イベントで賑わいます。
季節によって姿を変える
大自然の風景
 岩手山や小岩井農場をはじめ宮澤賢治も愛した「イーハトーヴ七ツ森の原風景」など美しい風景が広がります。
桜、登山、紅葉、スキー、温泉など、一年中楽しめるまち
 四季を通じて子どもから大人までオールシーズン楽しめる観光のまちです。
こんな町です!



雫石町は県内最高峰の岩手山をはじめとする、雄大な自然に抱かれた町です。水がきれいなので米や野菜などがとても美味しく、スキー場や温泉、日本最大級の民間総合農場・小岩井農場などの観光施設も充実しています。美しい、楽しい、雫石町にぜひお越しください!

雫石の移住・総まとめ



雫石のことなら政策推進課に何でも聞いてください